# 地域社会学会会報

No.254　　2026.11.13

地域社会学会事務局　Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒982-8595　名取市ゆりが丘 4 丁目 10-1　尚絅学院大学　高木竜輔研究室内
TEL　022-381-3386(直)　郵便振替　地域社会学会　00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com　　URL　https://jarcs.smoosy.atlas.jp/ja

◆…… 〈　会報 254 号のトピック　〉 ……◆

1) 学会事務システム（SMOOSY）に A-Pass 機能を導入いたします。詳しくは 6 ページをご参照ください。
2) 2026 年度の会費納入をお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認お願いします。

目　次

12 月 13 日（日）開催の第 3 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告

ほか、事務局からの報告とお知らせなど

## 2026 年度 第 3 回研究例会のご案内

日時　　2026 年 12 月 13 日（日）　13:30～16:30
会場　　名古屋大学東山キャンパス全学教育棟 406 教室
（対面と Teams によるハイフレックス形式）
※アクセス方法等は、開催 2 日前をめどに、会員メーリングリストで配信します。

第 1 報告　ヨハネス・ヴィルヘルム（JICA　非会員）
「阿蘇に共に生きる
　――変容する社会関係、資本の流れ、そして多種が共生する生活空間」（仮題）
第 2 報告　ティモ・テーレン（金沢大学　非会員）
「The contested countryside of Noto: before and after the 2024 earthquake
（問われる地域：2024 年能登半島地震の前後）」（仮題）

## 12 月 13 日（日）開催の第 3 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

① 会場にご参加のみなさま

会場の場所をお知らせします。名古屋駅からお越しの場合は、まず地下鉄東山線に乗車いただき、本山駅で名城線にお乗り換え下さい。次の駅が名古屋大学です。

会　場　：名古屋大学東山キャンパス全学教育棟 406 教室
〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
アクセス：名古屋市営地下鉄　名城線「名古屋大学」より徒歩約 5 分
＊会場の全学教育棟は、地下鉄名城線「名古屋大学」駅 1 番出口から西方面に 5 分直進、左手の校舎です。この建物の 4 階が会場です。大学構内にはコンビニがあり、キャンパス周辺にも飲食店が数軒あります。

＜会場周辺地図＞






② オンラインでの参加のみなさま

今期より、諸事情により Zoom ではなく Microsoft Teams を用いております。

＜事前の準備のお願い＞

◆ 事前に Microsoft Teams のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、最新バージョンに更新しておいてください。

◆ Teams のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。**なお、当日になっても学会事務局からの案内メールが届かない場合には、事務局メール（jarcs.office@gmail.com）にご連絡ください。**

◆ Teams の参加リンクは、他人に教えないでください。

＜当日のお願い＞

◆ 会議開始 5 分ほど前から入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせ等で入室可能時間が前後することがあります。

◆ 会議に入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作を行うことがあります。

◆ 表示名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。

◆ 研究例会は、研究委員会が記録用に録画する場合があります。接続・参加をもって録画に承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が会議画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

＜配布資料について＞

◆ 報告者から当日配布資料があるときは、クラウドにアップしておきます。こちらのリンク先は例会 2 日前の事務局からのメールにてお伝えいたします。なお、アップする期間は当日限りとなります。なお、当日配布資料の再配布はありません。

＜質問・発言について＞

◆ 以下のいずれかの方法でお願いいたします。

① Teams の「手を挙げる」機能を使用

② チャットに質問内容を書き込む

③ チャットに、質問がある旨を書き込む

＜終了後の交流時間について＞

◆ オンライン開催では交流時間を設けてきましたが、現在はハイフレックス開催のため、オンラインでの交流時間は設けておりません。

＜当日の操作に関する相談窓口＞

◆ 当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、操作に関する相談窓口を設けます。メールでご連絡ください。

◆ メールアドレス　r_takaki [アット] shokei.ac.jp　（[アット]を@にしてください）。

＜問い合わせ先＞

◆ 当日の操作に関すること以外は、研究委員長（平井太郎、of-hirai [アット] hirosaki-u.ac.jp（ [アット]を@にしてください））までメールでお問い合わせください。

## １．理事会からの報告

2026 年度地域社会学会第 3 回理事会は、2026 年 10 月 3 日（土）の 10 時 30 分から 12 時 00 分まで、東洋大学にて開催されました。ここでは、報告事項 8 件、審議事項として 6 件が議論されました。

出席（17 名、敬称略）
伊藤亜都子、齊藤麻人、阪口毅、庄司知恵子、新藤慶、高木竜輔、 武田俊輔、玉野和志、
中澤秀雄、二階堂裕子、野坂真、原田峻、平井太郎、藤井和佐、丸山真央、三浦倫平、矢部拓也

審議事項は以下の通りです。
①会員異動（新入会員、その他）
②SMOOSY　A-Pass 導入に関して
③理事交通費の拠出に関して
④次回大会　タイムスケジュールについて
⑤次回大会の準備状況について
⑥その他
ほか

●理事交通費の拠出について
現在、理事会では理事・委員の交通費拠出のあり方について検討しております。これまでも総会にてご意見いただきましたが、より使い勝手のよい形にしていきたいと思います。これにより、学会活動をさらに盛り上げていきたいと思っております。

●2027 年度第 52 回大会のタイムスケジュールについて
2027 年度の第 52 回大会（5/22-23）についてですが、諸事情により 51 回大会と同様、初日にシンポジウムを開催し、二日目に自由報告部会を設定する方向で調整しております。

（庶務担当理事　高木竜輔）

## ２．研究委員会からの報告

2026 年 10 月 3 日（土）に 2026 年度第 2 回研究例会を東洋大学白山キャンパスで開催しました。林凌氏から「ラディカル再考：1970 年代淡路島における石油備蓄基地誘致反対闘争を事例に」、前嶋訓子氏から「淡路島にみる〈社会〉の再編：編み直され、組み直される社会」と題する報告がありました。同じ淡路島をフィールドとしつつ、地域社会学にとって原点とも言える地域開発に対し、それぞれに新たな枠組みから光を当てる意欲的なご報告で、活発な質疑が繰り広げられました。詳細は『地域社会学会ジャーナル』第 28 号の報告論文と批評論文をご参照ください。

なお『地域社会学会ジャーナル』では新たな試みとして批評論文に対するリプライ論文の掲載を企画しております。これにより地域社会学会での双方向のやり取りをさらに厚くし研究水準全体の向上を目指していきます。

同日に研究委員会今年度第 3 回目のミーティングを対面とオンラインを交え開催しました。今年度 3 回目、4 回目、そして来年度の大会シンポジウムまで、共通の研究課題のもと切れ目なく研究を進捗してゆくことを確認しました（出席者：平井太郎、中澤秀雄、伊藤亜都子、三浦倫平、前嶋訓子、原田峻、阪口毅、仙波希望、伊藤嘉高、畑山直子、岡田航）。

第 3 回研究例会は 12 月 13 日（日）に名古屋大学で開催します。今回は国際交流委員会と共催で、ヨハネス・ヴィルヘルム氏(JICA)から「阿蘇に共に生きる――変容する社会関係、資本の流れ、そして多種が共生する生活空間(仮)」、ティモ・テーレン氏(金沢大学)から「The contested countryside of Noto: before and after the 2024 earthquake（問われる地域：2024 年能登半島地震の前後）」と題するご報告をいただきます。どちらもドイツ語圏で育まれた日本研究で、災害を背景にしつつ生態系と不可分な地域社会を資本と政治がどのように貫いてゆくのか

を抉り出すものです。多くのみなさまのご来訪をお待ちしています。

（研究委員長　平井太郎）

## ３．編集委員会からの報告

10 月 5 日に第 2 回編集委員会をオンラインで開催しました。9 月末締切で 13 本の自由投稿論文の提出があり、査読担当者を決定しました。お忙しいなか査読をお引き受けくださった会員の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

（編集委員長　丸山真央）

## ４．GEAHSS からの報告

GEAHSS（人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会）第 9 期第 2 回の運営委員会（総会に相当）が 9 月 26 日に開催されました。報告事項のなかから、会員の皆さんに下記 5 点について共有します。

(1) 第 6 次男女共同参画基本計画に対するコメント・評価が、GEAHSS WEB サイト（https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/single-post/comment20260703）に掲載されています。ご参照ください。

(2) 地域社会学会も協力した「ハラスメント関連規約・体制についてのアンケート」の結果のうち、各学協会のハラスメント関連規約について GEAHSS WEB サイトにポータルをつくって共有することが検討されています。

(3) 「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」の第 2 回調査の個票データ（数量的なデータのみ）を、東京大学社会科学研究所附属の SSJ データアーカイブから公開するため、個人や学協会が特定できないようにデータの整形が進められています。公開されましたら二次分析が可能となります。また、今後実施予定の第 3 回調査データも同様に寄託し、公開予定であることが示されました。

(4) 7 月 24 日に開催された「アーリーキャリア オンライン サロン」において話題となった内容を、関連するパブリックコメントの機会に政策提言に反映させていくことが報告されました。

(5) 加盟学協会における 2026 年 9 月までのグッドプラクティス事例が、配布資料にもとづいて紹介されました。当該事例は、GEAHSS WEB サイト内の「フォーラム」に掲載されています。必要の場合は、藤井和佐までご連絡ください。

（担当理事　藤井和佐）

## ５．会員異動（敬称略）

新入会員、退会会員など会員異動について、以下の通りです（以上、2026 年 10 月 3 日理事会で承認）。

＜新入会員（敬称略）＞

林凌（武蔵大学）「研究テーマ：批判的都市研究、開発史、行政史、社会運動史」（推薦者：平井太郎）

富永京子（立命館大学）「社会運動としての DIY・セルフビルドを伴う空き家活用によるコミュニティ形成、労働組合・新宗教ほか、中間集団・相互扶助団体による会館・施設の都市社会学」（推薦者：武田俊輔）

横山翔（弘前大学大学院）（推薦者：平井太郎）

家高裕史（関西学院大学）「地方都市や大都市圏郊外における人口移動と地域変動」（推薦者：堤圭史郎）

＜退会会員＞
谷亮治

（庶務担当理事　高木竜輔）

## ６．事務局からの報告

### (1)会費納入状況

2026 年 9 月末時点で 2026 年度分の会費は 251 人分が納入されており、終身会員を除く会員 381 人に対する納入率は 65.9%でした。

（財務担当理事　庄司知恵子）

### (2)会報 254 号の発行

学会 HP にて会報 254 号（今号）が発行されました。

（庶務担当理事　高木竜輔）

### (3)地域社会学会ジャーナル 27 号の発行

2026 年 9 月 6 日に学会 HP にて地域社会学会ジャーナル 27 号が発行されました。

（庶務担当理事　高木竜輔）

## ７．事務局からのお願いとお知らせ

### (1)2026 年度会費納入のお願い

2026 年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。

なお、諸事情により郵便局での払い込みを希望される方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2026 年度会費」を明記の上、会費（一般会員 6,500 円、院生会員 5,000 円）のご送金をお願いします。

2026 年度分の会費の振込確認ができた会員には『地域社会学会年報』第 38 集をお送りしています。

（財務担当理事　庄司知恵子）

### (2)学会事務システム（SMOOSY）における A-PASS 導入について（会員マイページのログイン方法の変更について）

会員マイページのログイン方法を、「A-Pass（エー・パス）」アカウントを利用した新しい方式へ変更することとなりました。今回の変更は、システム全体の仕様変更に伴うもので、株式会社アトラスが提供する会員管理システム「SMOOSY」を利用するすべての学会が、2027 年 3 月までに新方式へ移行する必要があります。当学会における具体的な変更時期（2 月を予定）や新しいログイン方法、必要な手続きについては、詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

（財務担当理事　庄司知恵子）

### (3)会員登録情報への「性別欄」の追加について

GEAHSS 担当理事からの提案を受け、SMOOSY の会員登録情報に「性別欄」を追加しました（9 月 11 日にメールにてお知らせ済み）。性別欄には、「女性」「男性」「女性・男性に当てはまらない」「回答しない」の 4 つの選択肢を設けています。この情報は、ジェンダー統計の作成や会員構成の動向・傾向を把握することを目的として収集するものであり、個人が特定される形

で公表されることはありません。

（財務担当理事　庄司知恵子）

**(4)Smoosy を用いたメール配信への切り替えについて**

これまで、Google のメーリングリスト機能を利用して会員の皆様に各種情報をお届けしておりましたが、今後は、会員管理システム「SMOOSY」の一括メール送信機能を利用して情報を配信いたします。なお、上記(3)の「性別欄の追加」に関するお知らせについては、すでに SMOOSY の一括メール送信機能を利用して配信しております。当該メールが届いていない方は、学会ホームページ左上の「会員の方はこちら」から会員マイページにログインし、ご登録のメールアドレスをご確認のうえ、必要に応じて変更をお願いいたします。

（財務担当理事　庄司知恵子）

**(5)SMOOSY における各種情報の変更について**

年報発送時において毎年数件ほど未達で帰ってきたりするなどございます。(4)の点でもお願いしたように、所属先や住所などの変更がありましたらすみやかに SMOOSY における情報を変更してください。そのほか会員資格に関しての変更（院生会員から一般会員への変更）などについても御協力ください。よろしくお願いいたします。

（庶務担当理事　高木竜輔）

**(6)会員の研究成果情報の提供のお願い**

2025 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 HP サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願いします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いします。

（庶務担当理事　高木竜輔）

## ８．会員の研究成果情報(2025 年～)

2026 年度［論文］

武田俊輔, 2026,「過去への責任／未来への継承――都市祭礼に埋め込まれた担い手の想像力と駆動力」『現代思想』54(13) :92-106.

2025 年［書籍・分担執筆］

武田俊輔, 2025,「祭り： 世代を超えた継承をもたらす歴史の作用」（p.34-37）、「資料の生態：社会学的な歴史資料論／資料のメディア論」（p.58-61）、「山車：歴史を具象化したコモンズとその作用」(p.86-87)、「民謡:資本主義と複製技術が再編したオーラルな文化」(p.88-89)「家と同族団を軸に伝統都市の 200 年を描く：中野卓『商家同族団の研究［第二版］』（上・下）」（p.164-167)佐藤健二・野上元・祐成保志編『よくわかる歴史社会学』ミネルヴァ書房.

2025 年度［その他］

武田俊輔, 2025,「Column 社会調査のあれこれ フィールドワークにおける「失敗」の記憶：調査者として祭りの若衆を務めた経験から」『社会と調査』(34) :84.

## ９．理事会のご案内

2026 年度第 4 回理事会
日時：12 月 13 日（日）10：30～12：30
名古屋大学東山キャンパス全学教育棟 406 教室
（対面と Teams によるハイフレックス形式）